

氏名	楮 秋霞		
学位の種類	博士（デザイン学）		
学位記番号	博甲第 9534 号		
学位授与年月	令和2年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	公営住宅標準設計 51C 型の成立と同時代の住戸型への影響に関する研究		
主査	筑波大学教授	博士（工学）	山本 早里
副査	筑波大学教授	博士（工学）	花里 俊廣
副査	筑波大学准教授	博士（工学）	山田 協太
副査	日本大学特任教授	工学博士	布野 修司

論文の内容の要旨

楮秋霞氏の博士学位論文は、最小限規模でつくられる、初期の鉄筋コンクリート造の集合住宅の標準設計を扱っている。それにより、公営住宅標準設計 51C 型の成立までの経緯と同時代の住戸型への影響を明らかにしたものである。その要旨は以下のとおりである。

第1章では、著者は、序論として公営住宅標準設計 51C 型（以下「51C 型」）が登場する社会的背景をまとめている。「1951 年度」の 2 桁をとって 51C 型とし、C は 12 坪の住宅を示していた。当時は極端な住宅不足の時代で、「臨時建築制限令」により政府によって坪数制限などが課されていた。そのような中、新しい時代の鉄筋コンクリート造で、かつ近代化された集合住宅にふさわしい 51C 型の住戸が設計されたと述べている。そして、食寝分離や就寝分解など生活を変革する機能がその設計の核であることを確認している。

第2章では、著者は、51C 型が、東京大学工学部建築学科吉武研究室のもとでどのような計画プロセスで作られたかを確認し、51C 型が成立するまでの経緯を明らかにしている。この過程で、51C 型には様々なヴァリエーションがあり、その中でオリジナル 51C 型が最も理念を表現している型であることを明らかにしている。吉武による『鉄筋コンクリート・アパートの設計について』というタイトルの、設計意図を語る文章の分析の結果、明らかにした内容である。この分析の結果、久米建築事務所による実施案などは、オリジナル 51C 型ほどは理念を尊重していないなどの評価につながっている。また、著者は、オリジナル 51C 型の近代化の理念をどの程度まで表しているかを測る指標となる、13 項目よりなるチェック表を作成している。チェック表は、この他の章でも用いられている。

また、第3章では、著者は図面として描かれた 51C 型をめぐる、実際の建設の現場での対応を述べている。沖縄を除く 46 都道府県にアンケートを行い、各都道府県における 51C 型の建設状況についてまとめている。39 都道府県からの回答によって、そのうちの 19 の県では実際に 51C 型が建てられていたことを明らかにしている。また、文献研究と組みあわせて、それらの都道府県の図面が検討され、オリジナル 51C 型の特徴をいくつか欠いた亜種が見られること、また、51C 型に

ついて増改築された事例があることを明らかにしている。このように、51C型は1つの型ではなく、様々な差異を含んだ平面図群をさすことになり、それがために、食寝分離や就寝分解など生活を変革する機能との関連で平面図をみると、どの程度までの多様性を 51C 型と認めてよいのか検討している。

第4章では、著者は51C型が以後の公営住宅標準設計にどのような影響を及ぼしたかを論じている。51C型以降の公営住宅標準設計を見ると、1950年までと違い台所兼食事室が計画されていることがわかること、また、2章で求めた13項目の指標では9項目以上が該当するという結果を根拠に、その影響があったことを明らかにしている。一方で、13項目の指標によって比べると51C型そのものとは差異があることを指摘している。

第5章では、著者は、51C型が1955年に設立された住宅公団の公団標準設計2DK（以下「公団2DK」）にどのような影響を与えたかを検討している。公団2DKは、公務員住宅の標準設計を流用したものであるが、流用された公務員住宅の標準設計も、13項目の指標の7項目以上を満たす結果となり、その特徴が51C型と類似していることを明らかにしている。ただし、公団は、DK以外の近代的な要素についても推し進めていることにも言及している。台所兼食堂をDKと呼ぶようになったことを始め、ステンレス流し、バランス式風呂釜、シリンダー錠、ダイニングテーブルなどを導入したことが、生活の広い範囲を近代化することにつながったことを著者は指摘している。加えて、公団2DKが大量に供給されたことを明らかにしている。公団2DKは、13項目の指標では9項目以上が該当するという結果となったことを根拠に、51C型の影響があったと論じている。

また、第6章では、著者は51C型が分譲マンションにどのような影響を与えたのかを明らかにしている。ごく初期の頃のマンション事例を見てみると、DKが使われており、51C型の影響があったとみてもおかしくないが、13項目の指標では6項目以下が該当する結果となるDKが多く、重要な影響が見られたとは言い切れないとしている。

第7章では、各章で得られた結論をまとめている。

審査の結果の要旨

(批評)

51C型とは、平面図を介してやり取りされる「近代的な住宅（住戸）とは何か」という概念の総体であるとし、オリジナル51C型という平面型が、51C型の理念が最も表現されている型であることを明らかにしている。本研究は、そこで示された平面図を、当時、吉武研究室で書かれた解説をもとに解釈し13項目からなる指標を作成することによって、詳細に分析することに成功している。また、この13項目の指標によって、その後に設計された公団標準設計2DKは51C型の影響下にあったこと、一方で、分譲マンション2DKには51C型の影響が限定的であったことを明らかにすることができた。また、現在でも日本各地に残されている51C型に関連する住戸を調査し、その平面型の変化を明らかにした点は労作に値する。学会内で重要性は認識されつつも十分に理解されない問題であった、51C型の実態を取り上げ、当時の資料を集めて51C型の成立と発展を明らかにし、その社会的なインパクトを明らかにするものであり、その学問的価値はきわめて高い。

令和2年1月10日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（デザイン学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。